

# 名戸ヶ谷ビオトープだより

第 85 号 2021 年春号

<http://nadogaya-biotope.com/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：小笠原 智 Tel 080-2259-4415

## 今年は桜が早く開花しましたが、 田植えは例年通りでした 新型コロナで今年も名戸小の田植えは中止になりました



田植え前の「オサ引き」

3月の合同活動日と翌週末で稲株踏み、4月18日に元肥（バイオ有機肥料）散布を行いました。新型コロナのまん延防止対策の為、名戸小の田植えは急遽中止になりました。4月24日から畔の補修、田んぼ内の草取り、板均しを行い4日の朝に会員の影山（清）さんの軽トラックで藤心ライスセンターから苗を引き取り搬入しました。田植えは連休最終日の5日にもち苗を多くの会員で終わらせ、8日にうるち苗を植え終了しました。もち苗は「満月」（陛下が皇居で田植えしている品種と

同じ）、うるち苗は千葉産の「コシヒカリ」です。

（小笠原 智）



田植えの準備もたいへんです

## ヘイケボタル幼虫の放流



ヘイケボタル幼虫約 120 匹



ホタル水路へ放流

曇り空気温 16 度の肌寒い月例活動日でした。新規の会員入会者が 3 名あり総勢 19 名と多くの参加でした。A ーン畔周りの草刈と B ゾーンの機械による草刈を行いました。

当日、9 時過ぎに松清さんが飼育していたヘイケボタル幼虫、約 120 匹を持参しヘイケボタルの生態についての説明と会員からの質

問などに答えました。

初めて幼虫を見る方はゲジゲジの様でびっくりしていました。それからホタル水路に放流し、終わって田んぼから餌のサカマキガイをとり放流付近へ放ちました。

何とか生き延びて今年も多く発光を期待したいと思います。(藤平 三郎)

## ザリガニ釣り場側に横断木道の「ヨシ木道」を造りました

環境政策課からの木杭支給とビオトープ委託作業予算で踏板等を名戸ヶ谷の高野木材さんから購入し、3 月末までに完成させました。ザリガニ木道とハンノキ木道を結ぶ木道です。1.5m の杭を打ち、根太を取り付け、踏板を敷き込んで止めました。ヨシの中の観察や散歩される方もいろいろなコースで廻れるようになりました。(小笠原 智)



# 畔に咲く花

5月5日、日差しは薄っすらと広がる雲に遮られています。風は植えられたばかりの苗をなぎ倒しそうな勢いで強く吹き付け、田んぼの水面は波紋がたちました。

この日、苗の柔らかな薄い緑色が添えられた田は清しく、生命力を取り戻したかのように感じられたのでした。

たくさんの大きな手や小さな手によって、田植えが行われました。

これから苗は分けつしながら成長し、名戸ヶ谷ビオトープは暑い時期に向かって、植物・鳥たち・昆虫・動物たちがいのちを謳歌する、そんな季節がやってきます。カエルの賑やかさも、カモたちのざわめきも、春の1日を祝うように聞こえるのです。

ふと目を落とすと、畦に咲く花々が風にふるえていました。

春の野花には黄色が多いのが不思議です。その多くがキンポウゲの仲間、花径はほと

んどが1cmほど。5枚の花弁と艶のある黄色をしています。注意してみると、同じように見える花々も違いがあることに気が付くはず

です。タガラシ・ケキツネノボタンが木道の下を彩るように、顔をのぞかせていました。

キンポウゲ科の花は観賞用の花も多く、クレマチスやアネモネ・クリスマスローズといった華やかで個性的な美しい花がある一方、トリカブトに代表されるように毒性を持つ一族です。楚々とした畦の花たちにも毒があると聞いて、少しおどろおどろしい気持ちにもなります。(肌の弱い人は皮膚炎になったり、食べれば胃腸炎を引き起こす可能性もある)

穏やかに見えるビオトープの中にも、観察すればちょっとしたサスペンスが繰り広げられているのです。タガラシなどは名前を聞くだけではちょっとかじってみたい衝動にも駆られますが、気軽に口にできなさそうです。

(網永ひろこ)



ケキツネノボタン  
茎：25～50 cm  
花：1～1.5 cm  
集合果：金平糖状

水田の周辺など日当たりのよく水気の多いところを好む。よく似たキツネノボタンに比べ茎に毛が多い。



タガラシ  
茎：30～60 cm  
花：8 mm前後  
集合果：楕円形

麦類の栽培に伴って伝来した、史前帰化植物。近年数を減らしている。毛はなくつやがある。



オヘイチゴ  
茎：20～50 cm  
花：1cm 前後  
果実：褐色

バラ科。日当たりのいい湿地を好み畦道には普通に生育している。茎はほぼ地面にはって育成。ヘイチゴに比べて大きい。

# ビオトープ質問箱 ～ニホンアカガエル編～

生き物に詳しい会員の小川さん(以下O)に、家族会員のゲンキ君(中2・以下G)が、ビオトープのアカガエルについて聞いてみました。

G: アカガエルの卵塊(写真1)が、ビオトープではたくさん見つかるのでびっくり。あまり姿は見ないけど、ビオトープにはどのくらい成体のアカガエル(写真2)がいるのかな。

O: アカガエルは夜行性なので、昼間はあたりを警戒して木道の下などに隠れているよ。産卵も夜から明け方に行われ、時期になると一匹のメスにオスが群がっている様子が見られる。例年卵のかたまりは100前後確認されるから、メスの数もそのくらいいると考えられるね。

G: ニホンアカガエルは千葉県では「絶滅危惧種」と言われているけれど、どうしてそんなに減ってしまったのだろう。

O: このあたりでは以前は湧水が多く、冬も水で満たされた田んぼが多かったから、早春に卵を産むニホンアカガエルにとって住みやすい環境だったんだ。けれど、開発によって生き残れなくなり、今は柏ではここ名戸ヶ谷ビオトープと、市北部(大青田)の自然の沼地くらいしか、生存が確認されていない。

現在60代前後の人たちにとっては、どこにでもいる身近な存在で、よくつかまえて遊んだ経験があるようだけど、今の子どもたちにとっては残念ながら見たことがないと言われるカエルになってしまった。

G: 1つの卵塊から何百ものオタマジャクシが産まれるけど、生き残れる確率はどのくらいかな。

O: サギ・カモなどの鳥や、ウシガエル・ザリガニといった外来種にも食べられる。

また、ビオトープにはアズマヒキガエルやトウキョウダルマガエルもいるけれど、カエル同士でも生存競

争のライバルになると考えられる。

ただ、アカガエルの寿命は2～3年で、それらのカエルに比べて世代交代が早い。なんらかの理由でアカガエルの卵が減ってくるようなことがあれば、絶滅の危険性がより高いといえる。

ビオトープの周囲も住宅など人工的な環境なので、他からアカガエルが流入してくる可能性が低いという事情もある。

G: ニホンアカガエルの育ち方や特徴は。

O: 3～4月にオタマジャクシとして藻やプランクトンなどを食べ育つ。飼ってみると、メダカのエサをよく食べ、エサが少ないと雑食なので共食いもしてしまうよ。5月には体長3～4cmの小さなカエルになり、体色はオレンジ色に近いけれど、野外で見つけたときはふつう泥にまみれて茶色っぽい。キョッキョッキョッと少し高い澄んだ声で鳴くのが特徴だ。カエルになると、クモや小さな昆虫を食べる。稲作をしている人間にとっては、害虫を駆除してくれる存在だね。

最後に、ニホンアカガエルはたしかに希少だけれど、名戸ヶ谷ビオトープにはほかにもたくさん大切な生き物がいるね。アカガエルだけを保護しようとするのではなく、稲作を中心とした湿地の利用をする活動の中で、多様な生き物がいつの間にか季節によって数を増やしたり減らしたりする様子を、これからも見守っていけるといいね。

(写真: 小川幸夫 構成: 高橋紀子)



写真1: アカガエル卵塊



写真2: ニホンアカガエル成体(包接中)

# 新入会員紹介



左：出井さん

右：中村さん

## 中村和江さん

令和3年4月に入会させていただきました、中村和江76歳です。

柏生まれ、柏育ちですが、住まいは西口です。仕事上市内をまわっていたので、名戸ヶ谷ビオトープは蛍の飛ぶところで、湧き水を汲みに列をつくっている姿を見た覚えがあります。やっと自由時間がとれるようになり、豊四季団地の片隅に小さな小さな湧き水が流れていて、自分が小さい頃から見ている景色でなんとか皆さんが癒せる景色に残したいなという思いがあり、友人の出井さんと2人で柏市公園里親制度に申し込み、令和2年9月から自己流で作業を始めました。

そこでどこかに参考になる地域がないものかと悩んでいたとき、名戸ヶ谷ビオトープが思い当たり、2人で早々に現地にいったところ小笠原さんにお会いでき、お話を伺うことができました。

どうぞよろしくお願い致します。

いでい

## 出井八重子さん

初めまして。この度入会させていただきありがとうございます。

自然保護と山野草に囲まれているこのような場所が少なくなっている今日この頃ですあるとき、名戸ヶ谷ビオトープのことを知りました。

皆様と交流を持って何かお手伝いできないかと思い参加しました。

自然にふれあい、その都度楽しく活動できれば幸いです。

皆様よろしくお願い致します。

# 月例活動状況のお知らせ (3月から5月まで)

## 3月20日(土)

田植え前の準備で株踏みと枯草の刈取り作業を行いました。初めて体験される新会員らが、粘っこい田んぼに足を取られ泥んこで大変でした。



もち田 No3、4の株踏み作業



作業後の田んぼ

## 4月17日(土)

田植え前の準備で畔回りの草刈と B ーんの機械による草刈を行いました。新会員 3 名の紹介をし、同時に 9 時過ぎから松清さんの飼育されたヘイケボタル幼虫の放流を行いました。



A ゾーン畔沿いの掘り起こし



B ゾーン土手沿いの草刈りと植物の養生



ホタル水路へ幼虫を放流

## 5月15日(土)

A ゾーン休耕田 ガマの刈取り、B ゾーン ヨシの刈取りを 15 名の会員参加で手際よく終わりました。

(藤平 三郎)



A ゾーン休耕田ガマの刈取り



B ゾーンヨシの刈取り



ヨシの刈取り後

## 6～8月の活動予定

6月 ●上旬：春の生態調査、加里肥料散布 ●上、中、下旬：田の草取り、

●19日：6月定期活動日 ●下旬：ヘイケボタルの観察会

7月 ●上旬：穂肥散布 ●17日：7月定期活動日

8月 ●上旬：雀除けネット張り ●21日：8月定期活動日 ●下旬：ハザ作り

注) 詳細の日時・作業内容は担当幹事からメールにて連絡します。

### 名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷病院前」下車  
面積：約 4,400 m<sup>2</sup> 湿性生物：57 種 生きもの：161 種（内、千葉県指定保護生物 26 種）

(2013 年、年間を通じて観察した生きものの種類)